MONDAY #KANSAI

「一人負け」起爆剤の万博

朝日新聞デジタルには、関西の話題が盛りだくさん。
関西ニュースレターで紹介しています。登録はこちらから。

大阪ガス研究所顧問　池永寛明さん

開幕まで4年を切った2025年大阪・関西万博。地盤沈下したままの関西を「再起動」させる好機だと訴えるのが、大阪ガスエネルギー・文化研究所顧問の池永寛明さん(62)だ。コロナ禍での環境変化も踏まえ、進むべき針路とは。

——関西は長く停滞から抜け出せていません。どう見ていますか。

「残念ながら、過去に固執する大阪・関西、そして未来を夢見る東京という構図が続いていると思います。大阪市の人口が日本一だった『大大阪』の時代（大正末期~昭和初期）は終わり、関西の経済成長率は大阪万博が開かれた1970年をピークに下落傾向が続いています。近年は経済が伸びにくいとされる四国や北海道、北陸などよりも低迷し、『一人負け』の状況です。過去の栄光のためか、この認識を持っている人は少ない気がします」

——なぜそうなったのでしょう。

「理由の一つは高度経済成長期に商社など大企業の東京シフトを止められなかったから。もう一つは、ほかの都市にない価値をつくる戦略を欠いたからだと思います。シルクロードの終着点であり、『天下の台所』とも言われた関西は、外から来たものに付加価値を足すのが得意でした。菜種を北前船で運んできて、菜種油にして出荷したのは良い例です。海外から伝わった戦いの神の阿修羅像も穏やかな顔の像として生まれ変わりました。戦後は軽工業から重工業にシフトし、大阪・関西でなくてもよい、得意技じゃないもので勝負してしまった。安かったらええ、もうかったらええ、という考えに偏りすぎた気がします」

いけなが・ひろあき　1959年、大阪市生まれ。82年に大阪ガス入社。2016年、大阪ガスエネルギー・文化研究所所長に就き、19年から顧問。万博を市民らと考える「大阪・関西万博会議　ワイガヤサロン」の座長も務めた。

最後のチャンス

——コロナ禍も続いています。影響をどう考えますか。

「関西にとっては社会の変化が追い風だと思います。オンライン化が進み、東京に行かなくても情報が手に入るようになりました。出張に伴う人件費や旅費、機会損失などから解放され、パフォーマンス（効率）が高まっています。東京一極集中が崩れ、新たな価値を持つ都市になれる最後のチャンスかもしれません」

「コロナ禍は、近代以降では明治維新、第2次世界大戦の終戦に次ぐ3度目の『リセット』だと考えています。オンライン革命で人との関係性が変わり、生き方がこれまで以上に大切にされるようになりました。仕事ではなく、家族を生活の中心に据える人が増えるでしょう。そんな価値観の変化をとらえて、どんな都市をつくるか議論すべきです。これまでは先端技術をどう社会に生かすかという議論が先行し、どんな社会にしたいかという本質が見失われていました。70年万博は、街づくりよりも技術の披露が重視されました。関西経済が停滞したのもその影響ではないでしょうか。今回の万博は経験を踏まえて考えるべきです」

——万博でめざすべきものとは。

「パビリオン（展示館）をつくるだけでなく、大阪・関西の未来の社会像を考える機会になればと思います。1925年に大阪の市域拡張を機に開かれた『大大阪記念博覧会』の開催前には、有識者らが『教育の大阪』『水の大阪』など27テーマで都市像を徹底的に議論しました。100年後を見据えて住み心地良い都市づくりを進めた結果、大阪は今年の英誌の調査で世界の住みやすい都市2位に選ばれました」

生駒山にタワー

「大大阪博覧会で生まれた機運が後押しし、1931年には大阪城の天守閣も再建されました。大阪にも観光のシンボルが必要だと考えたからです。大阪城は今、インバウンド（訪日外国人客）の圧倒的な人気スポットとなりました。今回の万博でも関西各地を見渡せる奈良の生駒山に『アマテラスタワー』を建ててはどうでしょうか。安全や防災の祈りの場と位置づければ、観光客にも人気になるでしょう。70年万博でつくられた太陽の塔に続くシンボルタワーになると思います。今回の万博の取り組みをきっかけにして、この先10年で『再起動』できるかどうかが関西の未来のカギになります」

——再起動とは。

「忘れてしまっていた大切な価値観を掘り起こし、新たな社会を築くために生かすことです。多様なものを融合して日本的なモノ、コト、サービスをつくり出す大阪・関西の強みを改めて認識すべきです。芸術（Art）、科学技術・技巧・技術（Techno）、文化・文芸（Culture）、芸能（Amuse）の多くは、大阪・関西で育まれました。能楽や人形浄瑠璃、堺の包丁などが一例です。価値を再認識し、現代の視点で新たな価値を加えられれば、関西の街づくりに生かせるのではないでしょうか」

（聞き手・箱谷真司、写真・新井義顕）

◆次回は8月23日に掲載予定です。